

イベントスケジュール 2019.4-2020.3

※スケジュールは中止、変更、追加になる場合がありますので、必ず事前に博物館にご確認ください。

展覧会

《企画展》

■「楽器と植物・楽器と動物」

8/1(木)～9/23(月・祝)
材料、形、絵画、彫刻、音…楽器には植物や動物がたくさん使われています。その深いふかーい理由とは？夏休みの自由研究にぴったりのテーマです！



《ミニ企画展》

■「大正琴歴史館～大正・昭和・平成から新しい時代へ～」

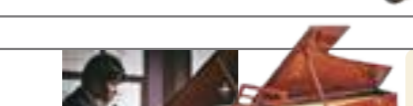
4/1(月)～5/6(月)
大正琴100有余年の歴史と、その時代の暮らしの品々を紹介します。



《ミニ企画展》

■「沖縄の語り・三線」7/25(木)～9/23(月・祝)

2018年11月に、国の伝統工芸品に指定された弦楽器三線(サンシン)の構造や歴史を紹介します。ミニコンサートとミニ講座も予定。



神祈り
美にふれる
にであ

コンサート

《レクチャーコンサート》チケットは2ヵ月前から発売

■「ショパン・オン・ブレイエル～時代の音に酔いしれる～」

4/5(金) 19:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール 2,500円
出演：川口成彦 使用楽器：ブレイエルピアノ(1830年/パリ 楽器博物館所蔵)
2018年11月にフルシャフで開催された第1回ショパン国際ピアノコンクール第2位、今ヨーロッパで注目の若きピアニストが、ショパンの時代のピアノで奏でるショパンの曲。



■「国際博物館の日」記念事業「上方風流寄席獅子～落語と鳴り物の幸せな時間～」

5/4(土) 14:00 アクトシティ浜松音楽工房ホール 3,000円
出演：林家染雀、露の眞、林家染八、月亭遊真、はやしや絹代、はやしや京子
落語のお囃子は上方がルーツ。太鼓、笛、三味線などの鳴り物のお話と実演。そして落語を鳴り物入りでたっぷり！



■「砂漠の街の楽師族～インド・ラージャスターンの音楽と楽器～マーンガニヤールの芸術」

5/16(木) 19:00 天空ホール 3,000円
出演：ジャイスルメール・ピーツ(インドより来日)
マーンガニヤールとはインド北西部ラージャスターン地方に住むイスラム教徒でありながらもヒンドゥー教の王族に仕えてきた音楽カーストの呼称。その並外れたレベルの演奏と歌声をたっぷり！



■「日本・オーストリア友好150周年記念「王侯貴族の愛した幻の弦楽器「バリトン」」

6/5(水) 19:00 天空ホール 2,500円
出演：エステルハーゼ・アンサンブル(ウィーンより来日)
ハイドンが仕えた貴族エステルハーゼ家。主君ニコラス侯はバリトンをこよなく愛し、ハイドンは150曲以上の作品を作った。ニコラス侯が私的に楽しんだ123曲のバリトン三重奏曲からいくつかをご紹介します。



■「サラスヴァティー女神の楽器「ヴィーナー」」

10/19(土) 18:30 天空ホール 2,000円
出演：的場裕子(ヴィーナー)、竹原幸一(タブラ)
ヒンドゥー教で芸術や学問を司る女神サラスヴァティー。水と豊稔の女神でもある。女神がいつも手にしているのは弦楽器のヴィーナー。その神秘的響きを聴いていただく。

■「よみがえった金属弦アイリッシュハーブ～鉄の弦・真鍮の弦・銀の弦～」

11/14(木) 19:00 天空ホール 2,000円
出演：寺本圭佑
一度は伝承が途絶え20世紀になって復興されたアイリッシュハーブ。しかしその弦は伝統的な金属弦ではなくナット弦だった。本来のアイリッシュハーブの金属弦、さてその音色とは？

講座・ワークショップ

《子どもワークショップ》

■「一休さんも吹いた笛・小さな尺八「一節切」をつくって鳴らそう！」

8/24(土) 13:30～16:00 申込制
アクトシティ浜松研修交流センター 500円
講師：相良保之(古典尺八一節切演奏者)

■「インドネシアの伝統楽器ガムランを演奏しよう！」(予定)

9/23(月・祝) 詳細未定 申込制
アクトシティ浜松研修交流センター 500円
講師：ハナジョス(ロム・フィット・イブラヒム、佐々木宏実) 西岡美緒

《親子ワークショップ》

■「羊毛フェルトで楽器の絵を描こう！」

10/13(日) 13:30～16:30 申込制
アクトシティ浜松研修交流センター 500円
講師：安岡真理(静岡市美術館学芸員)

ギャラリートーク

毎日数回、展示品をひとつ選んでの10分間のショート解説。



ガイドツアー

原則として日曜日上午午後2回開催する約30分間の展示解説。他の催し物がある時は中止または変更。



音楽の広場

不定期日曜開催の市民によるミニコンサートです。



ミュージアムサロン(ミニコンサート&レクチャー)

不定期日曜開催の、職員やゲストによるミニコンサート、ミニレクチャー。



Hamamatsu Museum of Musical Instruments
浜松市
楽器博物館
No.127
2019.2.28
だより

レクチャーコンサート

田園の愉しみ

18世紀フランス宮廷のバグパイプ
“ミュゼット”



ミュゼット



ルネサンス・バグパイプ



1月23日(水)に、上尾直毅さん(ミュゼット)、西野晟一朗さん(チェンバロ)、和田達也さん(ヴィオラ・ダ・ガンバ)によるレクチャーコンサートを開催しました。実際の楽器演奏に加え、スライド資料も用いながら、ミュゼットのもつ歴史的背景やその魅力を存分にご説明いただきました。

ミュゼットはバグパイプの一種で、18世紀のフランスの貴族たちに愛好されました。バッグに溜めた空気を使い、ドローン管で「ドローン(蜂の羽音の意味)」と呼ばれる低音を持続させつつ、同時にメロディー管で旋律を奏でます。多くのバグパイプでは管をくわえて口から空気を吹き込むのに対し、ミュゼットは演奏者の腰元に取り付けたふいごから空気を送り込みます。そのため、女性が管楽器を演奏することが好ましくないとされていた18世紀においても、上品に演奏ができるミュゼットは例外的に女性による演奏が認められたそうです。また、貴族好みに装飾された豪華なミュゼットを描いた絵画も多く残されています。

メロディーと一緒に鳴り続ける特徴的なドローン

ですが、その音の高さは自由に変わることができません。つまり、決まった調性にしか対応できず、演奏可能な曲が制限されるという難点があります。そのため、ミュゼットの妙でもあるドローンが、皮肉にもミュゼット自体の衰退を招く一因ともなったそうです。お客さまから「ドローン管の素材は何ですか」という質問がくると、象牙製であることと、さらには当時、象牙製の楽器の製作は楽器職人と象牙職人のどちらの仕事かが裁判で争われたなど、興味深い逸話も紹介していただきました。

田園風の優雅な演奏曲とともに、当時の人々が音楽や楽器をどのように享受していたのかを追体験できるような、充実したコンサートとなりました。

レクチャーコンサート

「田園の愉しみ～18世紀フランス宮廷のバグパイプ“ミュゼット”～」

日 時：平成31年1月23日(水) 19:00

場 所：楽器博物館天空ホール

出 演：上尾直毅(ミュゼット)、西野晟一朗(チェンバロ)、和田達也(ヴィオラ・ダ・ガンバ) 入場者：52人

子どもワークショップ「一節切を作ってならそう！」



子どもワークショップ
「一休さんも吹いた笛 小さな尺八 “一節切” を作って演奏しよう！」
日 時：平成31年2月10日(日) 13:30～16:00
場 所：研修交流センター37音楽セミナー室
講 師：相良保之(古典尺八・一節切研究演奏者) 参加者：14人

2月10日(日)は尺八演奏家の相良保之さんをお迎えし、「一節切(ひとよぎり)」のワークショップを開催しました。当初は夏に開催の予定でしたが、台風のため延期となり、今回改めて行われることとなりました。

はじめに、相良先生による一節切についてのレクチャーがありました。一節切という名前は、節が一つあることに由来します。一休さんや織田信長が演奏したことで知られており、江戸時代元禄期に虚無僧尺八が一般的に「尺八」とされるまでは、一節切が「尺八」と呼ばれていたそうです。子どもたちは、先生の話聞いて一節切への興味をより深めている様子でした。

一節切づくりでは、子ども達がノコギリを使って竹材を決まった長さに切り、キリや電動ドリルで穴をあけました。力作業もありましたが、保護者の手助けもあり、「自分だけの一節切」が出来ました。完成した一節切の音を鳴らすために試行錯誤しながら頑張る子どもたちの姿が印象的でした。

音楽の広場「クラリネット・ダモーレ」「チェンバロ」

2月14日(木)～16日(土)に香川県高松市で開催された「第3回たかまつ国際古楽祭」に出演された演奏者の方々をお招きし、2月19日(火)と20日(水)にコンサートを行いました。

1日目に登場した楽器、クラリネット・ダモーレは、1770年頃広く普及し、19世紀に姿を消した幻のクラリネットです。現代のクラリネットとはまた違った音色を持っています。コンサートでは2018年に復元されたものを使い、「クラリネット・ダモーレの為のパーティータ」などを演奏していただきました。

2日目は、当館所蔵のブランシェ・チェンバロを使用しました。これはフランス革命以前の1765年にフランス王室御用達の楽器製作一家“ブランシェ”により製作されたものです。見た目もさることながら、音色も輝かしく美しいです。コンサートでは、独奏や歌曲、フラウト・トラヴェルソとのデュオなどをお聴きいただきました。

普段聞く機会の少ない貴重な音色を、十二分にお楽しみいただけたと思います。



音楽の広場「幻の管楽器 “クラリネット・ダモーレ” と弦楽四重奏」
「楽器博物館の至宝 “ブランシェ・チェンバロ”」
日 時：平成31年2月19日(火)、20日(水) 19:00
場 所：楽器博物館天空ホール、展示室
出 演：19日ブラッド・ウェーヴェルベルグ(クラリネット・ダモーレ)、テラ・ノヴァ・コレクティブ(古楽アンサンブル) / 20日バルト・ナーセンス(チェンバロ)、アマリス・ディールエンス(ソプラノ)、柴田俊幸(フラウト・トラヴェルソ) 入場者：19日54名/20日44名

楽器博物館友の会コンサートと交流会



楽器博物館友の会第16回学芸員との夕べ コン서트&交流会
「アルルの女～エーラル・ピアノによる魅惑のピゼー ピアノ作品の夕べ～」
日 時：平成31年2月23日(土) 17:45～20:30
出 演：小倉貴久子(ピアノ)
演奏会：楽器博物館天空ホール 17:45～18:45 入場者：111人
交流会：研修交流センター62室 19:00～20:30 参加者：58人

2月23日(土)に友の会会員限定イベントを開催しました。二部構成となっている会の前半は、フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼーにスポットを当てたコンサートでした。ピアニストの小倉貴久子さんをお迎えし、「ノクターンニ長調」「ラインの歌～6つの無言歌～より」「アルルの女」などが演奏されました。「アルルの女」は、現在では2つの管弦楽組曲が有名ですが、元々は同名小説の劇中音楽として作曲されたものでした。全27曲のうち、11曲を演奏していただきましたが、30分間にも及ぶ演奏で、とても聴きごたえがありました。演奏の合間には物語の解説もしていただき、お客様からも「ストーリーと共に音楽を楽しむことができました。」と好評の声が上がっていました。

後半の交流会では、軽食を囲みながら小倉さんや職員との歓談を楽しみました。日頃から博物館を支えてくださる皆様との交流を通して、職員一同もより一層気の引き締まる思いとなりました。

聖隷クリストファー中学校特別授業



聖隷クリストファー中学校特別授業
日 時：平成31年1月18日(金) 9:30～15:00
場 所：楽器博物館展示室、研修交流センター401会議室
講 師：田上千穂(聖隷クリストファー中・高等学校教員)、嶋和彦(当館館長)、増田博行(当館職員)、小田桃子(同)、佐藤さくら(同)、野口夏菜(同) 対象：聖隷クリストファー中学校1年生 約50名

1月18日(金)に、聖隷クリストファー中・高等学校の中学1年生を対象とした特別授業を行いました。毎年行っているこの取り組みですが、今回は「馬頭琴とモンゴルの人々」「管楽器の歴史と仕組み」「ガムラン演奏講座」「展示楽器の調べ学習」の4つの授業を通して諸民族の文化や生活、その中で息づく音楽について考えてもらいました。

「馬頭琴とモンゴルの人々」では、当館職員が講師となり、馬頭琴誕生物語『スーホの白い馬』からモンゴル遊牧民の文化を読み解きました。また、「管楽器の歴史と仕組み」では当館職員による楽器の実演も交え、当館館長が管楽器の仕組みや変遷について解説をしました。「ガムラン演奏講座」では、当館職員の解説と演奏指導により、学級毎にジャワガムランで合奏しました。

生徒はどの授業にも真剣に取り組んでいました。この授業や楽器博物館を通して、世界にはさまざまな文化や暮らしがあることを知ってもらえれば幸いです。

図書館連携「音楽のまち講座～平家琵琶と琵琶～」

2月9日(土)は、地歌箏曲家の菊央雄司さんをお招きして、城北図書館との連携講座「平家物語と琵琶～耳で聴く物語の魅力～」を開催しました。講座の前半は、当館館長嶋和彦による、琵琶の歴史についての解説でした。琵琶と祖先を同じにする楽器として、ヨーロッパなら「リュート」、中国なら「ピパ」があります。それらにはネックが折れ曲がっているという共通点がありますが、構え方や形など、違う部分もあります。日本の琵琶は、中国のピパを直系の祖としていますが、現代中国のピパは超絶技巧で華やかな演奏が多く、一方日本の琵琶は厳かで滋味深い演奏が多いそうです。

楽器解説の後は、受講者全員で「祇園精舎」の語りを体験し、また、図書館の方による「祇園精舎」と「那須与一」の朗読と、菊央さんの演奏を交互に楽しみました。朗読なら数秒で読める一文も、語りでは一文字一文字を味わうように節をつけます。特に「那須与一」の語りでは、音の数だけでいえば決して多くないにもかかわらず迫力を感じる場面もあり、菊央さんの語りにも引き込まれました。

現代では、平家物語は読み物として接することが多いのですが、元来は琵琶法師が琵琶を弾きながら語ったことにより、広く人々に愛好されるようになったものです。今回の講座は、その「語り」を存分に味わえる、貴重な機会となりました。

【博物館日誌】

1/18(金) 聖隷クリストファー中学校特別授業 9:30～15:00
研修交流センター 展示室 講師：田上千穂(聖隷クリストファー中・高等学校教員)、嶋和彦(当館館長)、当館職員 対象：聖隷クリストファー中学校1年生約50人
1/20(日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア)、14:00(ヨーロッパ) 参加者：30人
1/23(水) レクチャーコンサート「田園の愉しみ～18世紀フランス宮廷のバグパイプ “ミュゼット”」 19:00 天空ホール
出演：上尾直毅(ミュゼット、解説)、西野晟一郎(チェンバロ)、和田達也(ヴィオラ・ダ・ガバンバ) 入場者：52人
1/27(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(ヨーロッパ) 参加者：60人
2/3(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(アジア) 参加者：38人
2/9(土) 城北図書館連携企画講座「平家物語と琵琶～耳で聴く物語の魅力～」 13:30 城北図書館講座室 講師：菊央雄司(地歌箏曲家)、嶋和彦(解説/当館館長) 受講者：44人
2/10(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(ヨーロッパ) 参加者：68人
2/10(日) 子どもワークショップ「一休さんも吹いた笛・小さな尺八 “一節切” をつくって鳴らそう！」 13:30
研修交流センター37セミナー室 講師：相良保之(古典尺八・一節切研究演奏者) 参加者：小学生14人



城北図書館「音楽のまち講座」楽器博物館連携企画
「平家物語と琵琶～耳で聴く物語の魅力～」
日 時：平成31年2月9日(土) 13:30～15:00
場 所：城北図書館講座室
講 師：菊央雄司(地歌箏曲家)、嶋和彦(当館館長)
受講者：44人

2/17(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(アジア) 参加者：52人
2/19(火) 音楽の広場「クラリネット・ダモーレ」 19:00 天空ホール
出演：ブラッド・ウェーヴェルベルグ(クラリネット・ダモーレ)、テラ・ノヴァ・コレクティブ(古楽アンサンブル) 入場者：54人
2/20(水) 音楽の広場「ブランシェ・チェンバロ」 19:00 展示室
出演：バルト・ナーセンス(チェンバロ)、アマリス・ディールエンス(ソプラノ)、柴田俊幸(フラウト・トラヴェルソ) 入場者：44人
2/23(土) 友の会会員限定イベント「学芸員との夕べ」 17:45
コンサート「アルルの女～エーラル・ピアノによる魅惑のピゼーピアノ作品の夕べ～」 入場者：111人 交流会 参加者：58人
2/24(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(ヨーロッパ) 参加者：59人
♪ギャラリートーク
(職員が毎日数回、展示品をひとつ選んで10分間ほど解説)
1月 計96回 参加者：1187人
2月 計96回 参加者：1167人

浜松市楽器博物館だより

平成31年2月28日発行 No.127 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129 URL <http://www.gakkihaku.jp/>